

ストレス症状、慢性疾患に駆瘀血剤



桑島 靖子 先生

医療法人社団 桑島内科医院

1994年 大阪医科大学医学部 卒業
 同 年 徳島大学 第一内科
 1995年 徳島県立中央病院 研修
 1996年 高松赤十字病院 血液内科
 1997年 京都大学 核医学科
 2005年 医療法人社団 桑島内科医院 副院長

はじめに

ストレスや慢性疾患では、西洋医学的標準治療だけでは難治な場合もある。病態の根底に瘀血の問題がある場合が多く、漢方治療が役立つ。実際に、瘀血治療により不眠とアトピー性皮膚炎で著明な改善を認めた2症例を紹介する。

症例 1

症 例：69歳、女性。

主 訴：不眠、イライラ、便秘。

現病歴・現症・漢方医学的所見：図1に示す。

治療・経過：桃核承気湯(KB-61) 6.0g/日(分2)、黄連解

図1 症例1 69歳 女性

現病歴

4～5年前より不眠にて睡眠薬を頓用。2カ月前に家庭の問題で大きなストレスがあり、**不眠とひどい便秘**となり、1日おきにセンナを煎じて服用。

興奮気味に、自分の症状について早口で何でも語り、思いつめた表情で、**怒りにも近い口調**で訴える。

現 症

やや肥満、**煩躁、顔面紅潮**、赤黒い顔色、汗はかかない、口乾、食欲あり、足の冷え、夜間尿1～2時間おき

漢方医学的所見

脈 診：沈、数

舌 診：紅、黄苔、舌下静脈怒張著明

腹 診：**ベッド上で仰臥位になるだけで下腹部痛**、腹力4/5
 右胸脇苦満、小腹急結、両臍傍圧痛、臍下部圧痛

毒湯(EK-15) 4.0g/日(分2)を処方したところ、2週間後ににこやかな表情で来院され、別人のようであった。便秘が改善し、夜も眠れるようになり、調子がよくなったため自主廃薬した。

症例 2

症 例：16歳、女性。

主 訴：アトピー性皮膚炎(顔面と頸部の熱感と痒みの強い紅斑)、無月経。

現病歴・現症・漢方医学的所見：図2に示す。

図2 症例2 16歳 女性

現病歴

生下時から3歳頃までひどい食物アレルギーで厳しい食物制限と抗アレルギー剤を服用していた。小学4年生の頃よりアトピー性皮膚炎にて悪化時のみ小児科にかかっていた。**高校受験による精神的ストレスがあり、再び悪化。無月経**も同時にみられるようになった。顔面と頸部の紅斑は著明。

思春期ということもあり、恥ずかしさで顔を上げられず、**ずっと下向き加減で口数も少なく、抑うつ傾向。痒みと熱感が強く、痒みのため、夜もよく眠れていない。**

現 症

やせ型、**抑うつ表情、顔面と頸部の熱感と痒みの強い紅斑**、皮膚乾燥、汗はよくかく、食欲あり、**便秘(2～3日に一行)**

漢方医学的所見

脈 診：浮、数

舌 診：紅、瘦薄、裂紋、**舌尖に点刺、黄白薄苔、舌下静脈怒張**

腹 診：腹力4/5 心下痞硬 腹直筋拘攣 両臍傍圧痛 臍下圧痛
 小腹急結 回盲部圧痛

治療・経過: 初診時に、温清飲(EK-57) 4.0g/日(分2)と、桃核承気湯(EKT-61) 6錠/日(分2)を処方した。

第2診(2週後)には、顔の痒みは10から5に軽減した。熱感が残るものの紅斑の赤みも減少した。まだ痒みは残るためフェキソフェナジン塩酸塩(60mg) 1錠を追加した。便秘は改善し、月経も再開した。

第3診(5週後)には、顔のほてり、顔面紅潮、頸部紅斑が消失した。痒みもかなり軽減し、肌に潤いが出てきた。表情も明るくなり、顔を上げて話ができるようになった。夜も眠れるようになった。便秘は消失し、月経も異常はない。舌診では、舌尖の点刺および黄白苔が消失したが、腹診では瘀血所見が依然として著明であった。

第4診(9週後)には、痒み、赤みともに消失し、肌に艶が出て、atopic skinとわからないほどきれいになった。夜もよく眠れているようである(図3)。

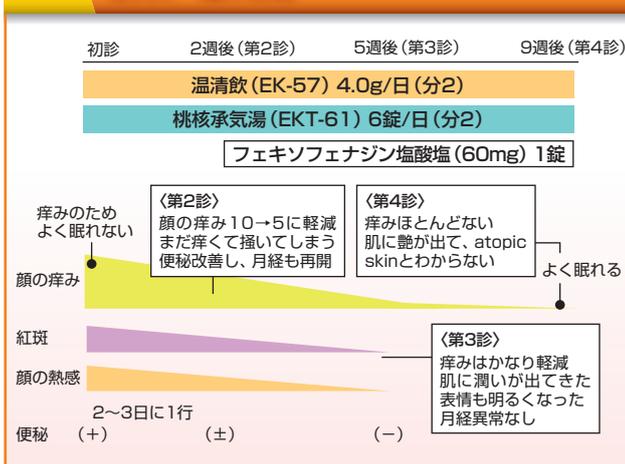
瘀血の根底には腸内フローラの乱れがあり、便通異常、精神症状、アレルギーなどを引き起こすことが知られている。また漢方薬の配糖体成分の分解にも腸内細菌が必要なため、漢方薬の効果にも大きく関係してくる。

漢方薬の処方も大切だが、食事の見直しも必要である。腸内フローラの悪化原因(ストレスコントロール、便秘、添加物、過度な糖質、乳製品、アルコール、抗生剤や鎮痛薬の乱用、トランス脂肪酸)を減少させ、改善するもの(発酵食品、繊維食、良質のオイル(ω 3系))の摂取、漢方薬で便通を整えることも重要である。

まとめ(桃核承気湯と鑑別処方)

桃核承気湯の処方解説と、桂枝茯苓丸、当帰芍薬散との鑑別について、図4に示す。

図3 症例2 臨床経過



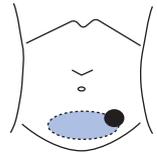
考察

現代社会では、運動不足、ストレス、不適切な飲食などによる気鬱や脾胃虚損に起因する瘀血証が増加している。疾病治療にあたって、瘀血に適切に対応することが重要である。2症例はいずれも瘀血に着目して著効を得ることができた。

図4 桃核承気湯と鑑別処方

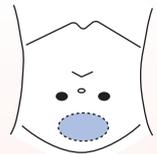
桃核承気湯：裏実熱、瘀血

- 大黄、芒硝、甘草《調胃承気湯》+ 桃仁(活血化瘀)+ 桂皮(理気)
- 下焦の瘀血を破って、清熱する
- 小腹急結、のぼせ、精神不安、便秘
- 下焦の蓄血により、小腹硬満、小腹急結、便秘となる。熱は上衝し、心をおかすためののぼせや精神症状をおこす。



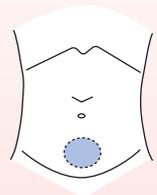
桂枝茯苓丸：裏実熱、瘀血

- 桃仁、牡丹皮(活血化瘀)+ 芍薬+ 茯苓(利水)+ 桂皮(理気)
- 瘀血をとり、瘀血に伴う水滯、気の上衝にも対応
- 標準的駆瘀血剤
- 小腹硬満、のぼせ
- 臍傍の抵抗と圧痛、小腹急結なし、便秘なし、精神症状は軽度



当帰芍薬散：裏寒虚、血虚、水毒、瘀血

- 当帰、芍薬+ 白朮、川芎、茯苓、沢瀉
- 当帰、芍薬(血虚)
- 当帰、川芎(活血化瘀)
- 白朮、茯苓、沢瀉(利水)
- 胃腸が弱く、貧血傾向、むくみやすく、冷え性
- 血虚、利水、弱い駆瘀血剤
- 腹力軟、軽度下腹部圧痛、小腹急結なし



Discussion

木村: 桃核承気湯はイライラに汎用されますが、精神症状に対する桃核承気湯の効果をどのようにお考えですか。

桑島: 瘀血所見があれば、抑うつ症状にも使用できると思います。

木村: 症例2は瘀血と便秘がひどかったようですが、便秘が改善することで精神症状も改善するということはあるですか。

桑島: あると思います。神経症状のある方は便通を整えることから治療を開始することが良いと思います。

木村: 現代の生活習慣では瘀血になりやすいと思われませんが、瘀血にならないために重要なことは何でしょうか。

桑島: 食事は主食をお米にして、小麦製品のパンや麺類、また乳製品の摂取を止めることがメインとなります。また、食事の中に昔ながらの発酵食を取り入れていただきます。このように、伝統食に戻ることが重要で、腸内環境が改善すれば、証に合った漢方薬は必ずその効果を発揮すると思います。